

2025 JUA/EAU Academic Exchange Programme 参加報告

植 木 秀 登 (神戸大)

この度は、2025 年 JUA/EAU Academic Exchange Programme に選考していただき、3 月 13 日～3 月 25 日までの EAU25 を含む約 2 週間参加させていただきました。EAU25 の会場がマドリッドだったため、当初からマドリッド近郊の施設見学のお話を聞いておりましたが、今回は幸運にもローマの病院も見学させていただくことができました。短期間に医療システムや文化の異なる 2 施設を訪問できたことは本当に貴重な経験でした。また、今回、千葉大学から参加されていた佐塚智和先生とは 2 週間を通して様々な経験を共有させていただき、今後につながる貴重なご縁となりました。私自身、大学院進学後 4 年間臨床から遠ざかっていたこともあり、多くの手術を日々こなしておられる佐塚先生のお話は大変刺激的で、臨床医としての視点を改めて学ぶ機会となりました。

・ TUA メンバーとの出会い

本プログラムには台湾泌尿器科学会からも 3 名の先生方が参加されていました。Dr. Shin Mei Wong は国立台湾大学で小児泌尿器科や排尿機能を専門とする女性医師、Dr. Jhen-Hao Jhan は現在ハーバードメディカルスクールに留学中の悪性腫瘍の専門医（ボストンからの直接参加）、Dr. Hao-Wei Chen は国立高雄大学の結石治療の専門医でした。皆さん素晴らしい人柄で、すぐに打ち解けることができました。また、日程をこなしていく上で彼らの英語力や積極性に助けられた場面も数多くありました。

・ ローマ：Gemelli University Hospital 訪問

トランジットを含めて約 20 時間の移動を経て、ローマでは Gemelli University Hospital の見学を行いました。この病院は、建物こそ歴史を感じさせるものの、イタリアでも 1, 2 を争う先進的な施設です。特にデータサイエンスを活用した医療プラットフォームが非常に充実しており、臨床現場と基礎研究を密に連携させた医療提供が特徴的でした。研究施設を案内していただいた際には、数千万円する最新の次世代シークエンサーが所狭しと並べられており、政府や企業から多くの資金を受けて臨床研究や個別化医療を推進していると説明を受けました。泌尿器科のボスである Prof. Bernardo Rocco は、世界で初めてロボット手術を行った文字通り泌尿器科の巨人です。毎日会議や外来・手術で多忙を極めながらも、手術着にパーカーというフットワークの軽さを感じさせる装いで我々を快く迎えてくれました。多忙なスケジュールや急な変更もあり、残念ながら Rocco 教授の手術を直接拝見することはできませんでしたが、その所作から醸し出されるオーラには圧倒されました。振る舞いや言動から学ぶことは非常に多く、ほぼ全ての種類の手術支援ロボットを使用した経験を持つ Rocco 教授が語る最終日の食事会では、一言一句聞き逃さないよう耳を傾けていました。



2025 JUA-EAU Academic Exchange Programme メンバーと Gemelli University Hospital のメインエントランスの前で (左から筆者、Dr. Hao-Wei Chen, Dr. Jhen-Hao Jhan, Dr. Shin Mei Wong, 佐塚先生)



スタディオ・オリンピコ・ディ・ローマで佐塚先生 (写真左) と



Prof. Rocco（左列手前から3番目）とのディナー（左端が佐塚先生、右列手前から2番目が筆者）



Royal Observatory of Madridの前でProf. Burgos（写真中央）と（右から3番目が佐塚先生、4番目が筆者）

・ローマでの生活と文化体験

連日、夜はディナーにご招待いただき、ローマ名物のカルボナーラやアマトリチャーナを堪能しました。マドリードでも共通していましたが、現地の夕食は20時半～21時頃からスタートすることが多く、解散も23時を過ぎるのが通常でした。翌朝の開始時間は決して遅くないことを考えると、現地の医師たちはそれほど睡眠時間を確保していないような印象を受けました。ローマで味わったパスタやドルチェはどれも絶品で、滞在期間を通して満喫できました。ただ、イタリア料理が好物の私にとっては、毎日パスタ、生ハム、ピザを食べることは苦ではないと思っていましたが、3日目頃から和食が恋しくなってきたのは意外でした。連日、シニアレジデントを中心とした先生方が交代でディナーに招待してください、それぞれから個性的なお話を伺うことができました。週末はローマの街を散策したり、佐塚先生とスタディオ・オリンピコでサッカーの試合を観戦したりしました。試合前には至る所で爆竹の音が鳴り響き、本場のカルチョの熱狂的な雰囲気を目の当たりにしました。幸いにも試合は勝利に終わり、帰途もスムーズでした。数百メートル歩けば世界遺産に出会うローマの街の芸術に圧倒されながらも、地元の人々の陽気さや優しさに触れる機会も多くありました。法律上ハムをお土産に持ち帰ることはできませんでしたが、チーズやトリュフ塩などを購入し、5日目の早朝にローマからマドリードへ移動しました。

・マドリード：Hospital Universitario Ramón y Cajal訪問
マドリードではRamón y CajalのProf. Francisco Javier Burgos Revillaにお世話になりました。ECIRS, RARP, RAPN, 尿道形成、腎移植など様々な手術を見学させていただきました。Prof. Burgosも大変な人格者であり、滞在期間中常に私たちのことを気にかけてくださいました。病院の外でも、レアル・マドリードのホー

ムスタジウム見学やマドリード王宮、美術館の見学など、私たちが楽しめる企画を毎日用意してくださいました。マドリードでも毎日食事は現地の先生方と共にしましたが、ここでも食事中のディスカッションは非常に印象的でした。若手の先生方も臨床試験や手術について持論を展開し、アジアから来た私たちの医療に対する考え方や興味深い研究についての話も熱心に意見交換を行いました。同席していたベテランの女性医師とも日本や台湾で行われている研究や新しい知見について積極的に情報交換し彼らの医療に対する真摯な態度に感銘を受けたとともに、キーとなる論文にはしっかり目を通して自分なりの解釈を持つことの重要性を感じました。私自身、臨床から離れていたため、より深い議論への参加が課題と感じる場面もありましたが、自分の専門性を磨くことの重要性を再認識し、将来のビジョンを考える上で大きな刺激を受けました。また、当然のことかもしれませんが、スペインでもイタリアでも泌尿器科医は日本と同様に、日々目の前の患者に真摯に向き合い、誠実に診療や手術に取り組んでいる姿に感銘を受けました。

・EAU25への参加

ローマからマドリードに移動して4日目にEAU25が開催しました。私は腎癌とAI関連の演題を発表させていただきましたが、AIを用いた診断や予後予測モデルの研究発表は領域横断的に多く見られ、この分野の勢いを実感しました。一方で、実臨床への応用がイメージしにくいAI研究も散見され、この領域における研究の実臨床への応用の難しさも痛感しました。これらの経験は今後の自身の研究活動に大いに参考となるものでした。EAU3日目の夜には、マドリード中心部にあるGalería de CristalでEAU President's & International Friendship Dinnerが開催され、会の冒頭でExchange Programmeに参加した5人で表彰いただきました。フォーマルなドレスコードの会に参加する機会をいただいた

けでなく、立派な盾まで授与され、EAU25と今回の Exchange Programme を大変有意義に締めくくることができました。

最後になりますが、本プログラムに多大なご尽力をいただいた理事長の江藤正俊教授や国際委員長の富田善彦教授、JUA 事務局関係者の方々には大変お世話になりました。ローマの空港に到着した瞬間から帰国の便に乗る直前まで、全てが完璧に準備・手配されており、海外出張に不慣れな私でもトラブルなく帰ってくることができ

ました。事前に様々な調整をしていただいたことに感謝申し上げます。また、今回プログラムに快く推薦していただいた三宅秀明教授と不在の間勤務のカバーをしてくれた医局員にもこの場をお借りして感謝申し上げます。このたびは大変貴重な機会をいただき誠にありがとうございました。今回得た経験を自分の将来に活かすだけでなく、後進の世代にもあらゆる形で還元していく所存です。ありがとうございました。
